

急性影響濃度の導出方法

・急性影響濃度の導出に用いるエンドポイント

半数の生物に影響がある濃度が用いられており、魚類急性毒性試験では「 LC_{50} 」、甲殻類急性遊泳阻害試験、藻類生長阻害試験では「 EC_{50} 」とする。

・不確実係数の適用

毒性試験に用いる生物は、水産動植物とその餌生物の位置付けの中で必ずしも感受性の最も高い種類と断定できないこと、農薬が散布される時期は繁殖期、孵化期、幼稚仔の生育期にあたる生物が多いことなどから、毒性評価から急性影響濃度を導出する際、不確実係数を適用し、種類差を考慮する。

